



龍郷町立龍南中学校学校便り

令和2年5月28日号



～ 私たちの島と新しい生き方 ～

校長 富士 篤也

「何で営業しているんだ。休業しろ!」「県外の車が何で今ここにいるんだ」「自粛要請が出ているのに公園で子どもが遊んでいる。子どもがマスクをしないでうろうろしているのか。通報しても、警察や学校は対応してくれない」

また、コロナウィルス感染症にかかってしまった人に対するバッシング、誰なのかを特定したという情報はインターネット上にあふれ、勤務先とされた会社がホームページで風評被害として否定することになったこともあります。昨年、あおり運転傷害事件で逮捕された人物の関係者だとネットで決めつけられた女性が、SNSで該当の発信をした人たちを相手に名誉毀損で訴えたことは記憶に新しく、誤った情報を投稿して起訴、罰金刑となった事例もあります。新型コロナウイルスについても、同じ事が繰り返されているのです。

こうした事例のほとんどが、匿名で非難批判し、自粛を促したり、悪行だと決めつけているのです。「コロナ自警団」、または「自粛警察」とは、自粛に従わない人や休業しない店舗などを責める風潮と、それを言葉や行動にあらわすことを呼ぶ言葉です。彼らの言動によれば、「県外ナンバーの車がいた」「休業していない店がある」「外で遊んでいる写真をSNSに投稿していた」など、色々な理由で攻撃されますが、県外ナンバーというだけで県外から遊びに来た人とは言えないし、休業対象店舗以外はルールを守れば営業してもいいし、人が少ない時間帯に外に出ることは悪いことではありません。「なんで子どもが外で遊んでいるんだ!」そのため「知らないおじさんやおばさんに叱られるからもう外に出たくない」と言っている子どももいるほどです。

今はすべての人が何らかの我慢を強いられている状態です。他人に対する許容量が極端に少なくなっているために、少しでも「正義」に従わない人が許せず、他人を攻撃することで鬱憤を晴らしている面もあるでしょう。

しかし、感染の心配や収入減の不安の中、多くの人は頑張っています。その甲斐あって徐々に感染者数も減少し、休業が解除された部分もあります。感染者は感染しただけであり、悪いのはウィルスです。誰かを攻撃しても事態が好転するわけではありません。感染の疑いをかけられるだけでも不利益をこうむる、孤立させられるような状態になっては、本当に感染の疑いがあったとしても申し出ないことを選択する人が増えてしまいます。そうすると、感染拡大を抑えることが難しくなります。それでは、本来、求められていた自粛の目的から離れるばかりです。

教育目標

「ふるさとを愛し、学ぶ意欲と確かな判断力・実践力をもち、心身ともに健康で人間性豊かな生徒を育成する。」

キャッチフレーズ

「世界に拓く「龍風の丘」!」
～ 子どもの持つ良さを見つけ、認め、伸ばす教育の実践～

令和2年度・キーワード

「あたりまえを、あたりまえに
あたりまえを、ひたむきに!」

今、新型コロナウイルスという新しい感染症に、人々は「未知・分からないもの」への「不安」「怖れ」から「偏見」「差別」と連鎖する人が増えているのです。

私たちの住む、この「結いの島」奄美大島でも同じような話を聞くことがあります。そのたびに、残念な気持ちになります。

もともと、「結いの心」とは、相互扶助・困ったときにお互いを助け合う。そうした助け合いの人間関係が根底にあったはずで

この奄美大島には、日本全体では薄れてきたこの「結い」の精神が脈々と受け継がれ、日々の地域での生活でいかされ、人と人のお互いの気持ちを察し、慈しみ、支え合っている素晴らしい伝統文化があるはずで

今、一番困っているのは、誰なんだろう?、困った人を一所懸命助けよう・支えようとしている人をどう感じているのだろうか?自分自身、家族、周囲の人を病気で不幸にさせないためにはどうしたらよいのだろうか?

自分のため、みんなのため!

これから私たちは、特効薬やワクチンができるまで、この感染症と共存していかなければいけません。ポイントはいくつもあり、「大変だなあ～」、「めんどくさいな」、「自分一人ぐらいいいだろう」、そんな気持ちになれば、また、逆戻りしてしまいます。

今こんな時だからこそ、ここ奄美大島・龍郷町・龍南から「結いの精神」で、新しくウィルスと共存しなければならない世界を乗り切っていきましょう。

新しい生活様式

基本的な感染対策



～ 楽しみだぞお、明日からの龍南中 ～



5月25日(月)、本年度の生徒総会が開かれました。生徒会活動は、生徒自らの手で自分たちの学校、自分たちの生活をよりよいものにしていく自治的な活動です。自分たち自身で課題を見つけ、解決策を考え、実行していく。大人になったとき求められる大切な力を身に付けることのできるチャンスです。

執行部、各専門委員会による、総会の準備、資料づくり、当日の進行、協議の運営、発言、どれも、しっかりとできていました。一生懸命取り組んで、うまくいかなければ、やり直せばいいんです。

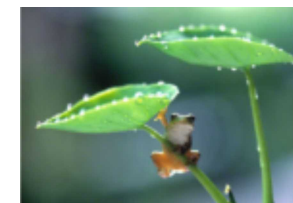
これからの龍南中、きっと、日々、一步一步、変わってくれる、そんな予感がした行事でした。



雨降るこんな時に・・・

いつか子どもが出来たら、
梅雨は空に溜まってた不安が
一気に降り落ちてくるから、
梅雨が明けたら
みんなの気持ちが軽くなるんだと
教えたい。

山口一郎
(サカナクション)



～ 私・君の足跡 ～

多くの部活動生徒にとって、3年生の試合・コンクールは、一番大切な目標でしょう。今年はその目標が感染症により、延期されたり、奪われたり、これまで想像したこともない状況となっています。世界的な競技大会、TOKYOオリンピック、インターハイ、中体連各大会、音楽コンクール等々。生徒の皆さんにとって心の中にぽっかりと穴が開いたようなそんな気持ち持いかも知れません。

しかし、今回の状況は、誰のせいでもないし、今まで君たちが積み重ねてきた努力や耐え忍んできた悔しさは、一人一人の心、今まで君たちを支えてくださった家族・地域の方、先生方の心に強く刻まれていますし、決してなくなるものではありません。

手を伸ばせば届きそうな勝利、夢見た未来は、今ここにはないかもしれませんが、君たち一人一人、そしてチーム、仲間が残した足跡は決して消えません。きっと、後輩達がその思いを引き継いでくれるでしょう。

この誰にもぶつけないことのできない苦しい、悔しい経験は、きっと、一人一人の記憶に残り、これから将来ぶつかる困難やどうしようもなく打ちひしがれた時、

きっと、きっと、**かならず**、君を勇気づけ、立ち直らせ、新しい一歩を踏み出さず後押しをしてくれる。そう信じています。

君たちに、この言葉を贈ります。

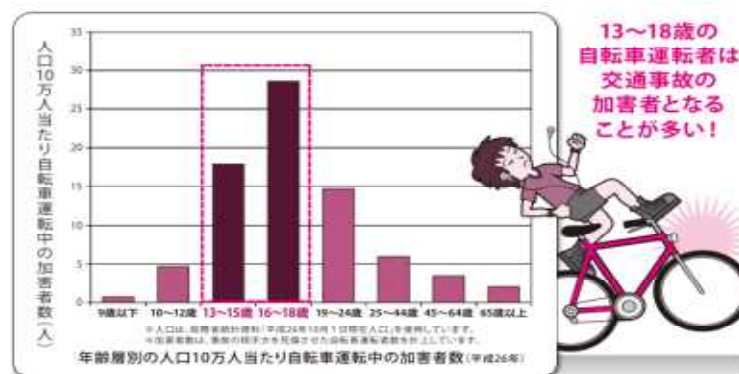


日頃から、注意して！



の説明を受けました。その中でも、近年、自転車の交通マナーが原因となる場合があると教えていただきました。自分が事故に遭うことも避けなければなりませんが、自転車加害者となる死亡事故もあることを忘れてはいけません。中・高校生が加害者になることも多く、多額の賠償額の請求事例も起っています。

今回、自分の自転車の乗り方について確認してほしいという話の後に、DVDを視聴しました。自転車は自動車と同じ車両（軽車両）なので、車道を走るのが原則であること、歩道を走るときは歩行者優先で車道側を徐行すること等のルールを守ってほしいこと等をご指導いただきました。



【裁判例】 自転車乗り入れ禁止の公園における歩行者との衝突事故 (千葉地裁判決)

【事故態様】

県立高校の生徒、自転車に乗って公園内の遊歩道で競争するなどして遊んでいたところ(通行禁止場所)、前方不注意のため被害者(65歳の男性)の発見が遅れ、ブレーキをかけたが間に合わず、衝突して転倒させ、急性硬膜下血腫により死亡させた。

【賠償額】 原告5名に対し、総額22,118,262円

5月7日(木)、鹿児島県警奄美警察署の交通課より講師をお招きして、交通安全教室を実施しました。

奄美警察署管内でも、交通事故が多発しており、亡くなった方、ケガをされた方が多数おられること

6月(水無月) June (予定)

日	曜	行事等
6/1	月	安全点検
2	火	生徒朝会
6	土	龍進未来塾
9	火	全校朝会
13	土	土曜授業
14	日	家庭の日(ノ一部活Day)
16	火	学年朝会、教育相談(～21)
19	金	期末テスト前部活停止(～25)
22	月	避難訓練(地震・津波対応)
23	火	全校朝会
24	水	期末テスト(～26)
29	月	生徒会専門部会
30	火	生徒朝会

ちょっと、一冊！

『いま、会いにゆきます』

市川 拓司

ある町に住む秋穂巧は、1年前に最愛の妻である澪を亡くし、1人息子の佑司と憤ましくくらしていた。2人は生前、澪が残した、「1年たったら雨の季節に戻ってくるから」という言葉が気になっていた。それから1年後、雨の季節に死んだはずの澪が現れる。2人は喜ぶが、澪はすべての記憶を失っていた。そこから3人の共同生活が始まる。



何気ない日々が大切に思える、感動感涙作品です。映画化・ドラマ化もされています。ぜひ読んでみてください。

2年部 井上 美南海